

第1回 シールドトンネル施工技術検討会 議事要旨

1. 日時 令和3年9月28日（火）17：00～18：45

2. 出席者

龍岡文夫委員長、久保和幸委員、神田政幸委員、佐藤研一委員、建山和由委員、三村衛委員、森川嘉之委員

3. 議事概要

- 設立趣意書及び規約（案）について事務局より説明を行い、全委員から了解が得られた。
- （独）鉄道・運輸機構より、相鉄・東急直通線新横浜トンネル工事現場付近で令和2年6月に発生した道路陥没について、原因やメカニズム、再発防止対策等をヒアリングした。
- 東日本高速道路（株）より、冒頭、地域の方々等にご迷惑をおかけしている事へのお詫びの発言があったのち、東京外かく環状道路工事現場付近で令和2年10月に発生した地表面陥没について、推定メカニズムや事故発生後の取組等をヒアリングした。
- 各ヒアリング後の質疑応答において、委員より以下の趣旨の意見があった。
 - ・ 施工中に土質が変化した場合など、シールドの切羽の安定を確保するための対策や掘進する地盤の性状に合った添加材を改めて検討する観点が重要である。
 - ・ 過剰な土砂の取り込みを早期に感知できるような排土量管理が重要である。
 - ・ シールドマシン停止前後で切羽の状況が変化する可能性があることから、掘進再開時における留意点を明確にすることが必要である。
 - ・ 排泥管が閉塞した場合など、掘削時に通常と異なる事象が発生した場合にとるべき対応策の留意点を明確にすることが必要である。
 - ・ 掘削時に通常と異なる事象につながる可能性のある兆候を早期に認識するための対策について、これまでの事例で確実に確認することが重要である。
 - ・ ガイドラインに位置付ける事項を今後検討するにあたっては、必要な事項が確実に実行されるように留意すべきである。
- 今後の進め方（案）について事務局より説明を行い、全委員から了解が得られた。